

2006年の佐鳴湖里山楽校

18年11月23日

本日11月23日今年のメジャーな活動が終わりましたので報告します。実は本日の予定「収穫祭」「ミニ水族館」は天候不順のため中止されたのですが、月日は勝手に区切りを告げています。収穫祭は棚田（写真添付）で収穫されたお米（赤米、黒米、佐鳴小町）を前にして天と地の恵み、人々の労働に感謝する集いです、エキジビジョンとして「案山子デザインコンクール（写真添付）」「里山散策」そして浜松市水辺を愛する会の「ミニ水族館」が開催されます。

佐鳴湖里山楽校を紹介しますと、浜松市の西部に位置する佐鳴湖の西岸の根川、棚田、根川山（海拔32m 樹木が豊富）を里山らしく維持することを目的とした活動ですが、放置されていた自然を里山に再生するのは容易ならざることので10年を超える活動をもってしてもまだゴールは見えません、そればかりか新たな問題も次々に登場しています。

浜松市環境企画課の支援と指導にも恵まれてここまで来ましたが、実行力のあるボランティアのアシストが欠かせません、早苗は個人の苗代からです、耕運機、脱穀機、籾すり機、も個人に依存しています。

公園の周辺の宅地化が進んで緑地が減ったからでしょうか根川の水源が細り地下水を汲み上げています。森林の将来図も調整が必要です、隣接地の人の中に自分は全くボランティアしないのに視界が開けるように木を切って欲しい人と目隠しに木を残して欲しい人の双方が居るからです。

棚田は10枚ばかり年間冠水水田にしていますからメダカやヤゴが越冬していますがそれを理解しないエトランゼがいて堰を崩し水を抜くのです、「水抜きおじさん」と命名してマークしていますが補修しか対策がありません、

外来動植物も悩みの種です、根川中流の遊水地にブラックバスを放流する人、誰に捨てられたか大きなアメリカ産赤耳亀、ザリガニも実は外来種ですよねオタマジャクシを食べてしまうのが実害です、新顔は紫朝顔（正しい名前は知りません）11月になっても紫色の花をつけている蔓草です、密生して他の樹木をやっつける力は葛より凄いです。

田植え、稲刈り、収穫祭、には小学生から高校生まで多くの子供達が参加してくれます、そして若いお父さんお母さんも、里山はしばし子供達の嬌声が溢れて華やかな雰囲気になります。

苗の植え方、鎌の持ち方、稲の縛り方、汚れた手袋や靴の洗い方、仲間に合図する発声等お手本を示して指導するのが我々の任務です。

里山楽校は参加していて楽しく有意義だと感じます、目標を言葉にすると、「清流を呼び戻してゲンゴロウ、ミズスマシを子供達に見せてやりたい、」でしょうか、しかし目の作業は、冬明るくなる里山を目指してクヌギ、コナラの

植樹、竹の完伐等です、藪蚊、スズメバチ、毒蛇に気を付けながら頑張ります。



以上